

ともしび ブダより

第105号



社会福祉法人
依田窪福祉会

事業別連絡先一覧

●法人本部 ☎85-2202

[E-mail] info@yodakubofukushikai.jp

[U R L] <http://www.yodakubofukushikai.jp/>

●依田窪特別養護老人ホーム
●短期入所生活介護事業 } ☎85-2218

●依田窪福祉会居宅介護支援事業 ☎85-2047

●ヘルパーステーションこすもす ☎85-0098

●デイサービスセンター 長門 ☎68-0226

●小規模多機能型居宅介護 大門の家 ☎41-2123

●デイサービスセンター 和田 } ☎88-0077

●高齢者生活福祉センター

●グループホーム和田 ☎88-0088

特別養護老人ホーム ともしび



今年もともしびのバラが綺麗に咲きました
職員が季節ごと生ける花も日々の楽しみの
ひとつです



「みんなは何を願ったのかな？」
短冊を読みながら笑顔がこぼれます



居酒屋イベント、歌や踊りを楽しみました♪



梅仕事に夏野菜の収穫…
夏も皆さん大忙しです



夏祭り、魚釣りゲームに挑戦!
屋台メニューも盛りだくさんでした



新たにインドネシア技能実習生3名が ともしびの仲間に加わりました

とても勉強熱心で、仕事を覚えるのも早く、毎日ぐんぐん成長しています。
その姿勢は共に働く職員にも良い刺激となっています。
これから一緒に、ご利用者の皆さまにより良いケアを届けていきます。



ヘルパーステーションひすもす

みなさんは『事業継続計画』という言葉を知っていますか？

事業継続計画（略してBCP）とは、災害や感染症のまん延といった緊急事態が発生した時に、事業所が介護サービスを続けるためにどのように行動するか、具体的な方法等を定めた計画のことを言います。私たちの事業所でも、万が一の時に備えて必要物品の確認や連絡方法の確認をしたり、研修を行ったりしています。災害に対しては、日頃から地域の特性や避難所と

なる集会所などの場所を確認し、ご利用者ごとの連絡先を把握しています。また、感染症の予防のためには、職員の健康管理に留意して予防に努め、ご利用者へ感染させることがないように心掛けています。

BCPは出番がなければそれに越したことはありません。今後も万が一に備え、皆さんが変わりなくご自宅で過ごせるように支援していきたいと思います。

依田窪福祉社会居宅介護支援事業

毎日の薬、残っていませんか？

「もう治っているから」、「効き目が感じられない」、「副作用が怖い」、と薬を飲むのを止めてしまったり、「いつか使えるかも…」とさまざまな理由で薬を溜めてしまうことはありませんか？薬をきちんと飲まないことで効き目が発揮されずに症状が悪化し、余計に薬が増えてしまうこともあります。また、いつか使えるからと使用期限が切れた古い薬で体調を損なう危険性もあります。

使わずに廃棄される薬は国内で年間約1千億円にもなるそうです。

自己判断せずに、自身の身体のためにも処方された薬は決められた用法・用量を守ってしっかり服用しましょう。

心配なことや疑問に思うことがあれば、私達ケアマネジャーにご相談ください。アドバイスできることもあると思いますので、気軽にいつでも声をかけて下さい。

特養ともしび ICT化事業のご報告

～2025（令和7）年度 長野県介護テクノロジー定着支援事業補助金を活用しました～

人と人との温かい関わりを増やすための進化

【ご挨拶と事業概要】

日頃より依田窪特別養護老人ホームの運営にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。当施設では、ご利用者様の安心・安全な生活と、温かなケアに集中できる環境づくりを目指し、令和8年3月末日までに「長野県介護テクノロジー定着支援事業補助金」を活用した施設全体のICT化を実施いたしました。ようやく全体のシステムを存分に活用できるようになってまいりましたので、ぜひ地域の皆様にも今の最新の介護現場はどうなっているのか？を知っていただきたいと思います。ご報告させていただきます。

1. 全体構成イメージ（導入したICTネットワークの全体像）

センサー・ナースコール・カメラ・インカム・タブレット・介護ソフト（WISEMAN）が相互に連動するシステムを構築しました。

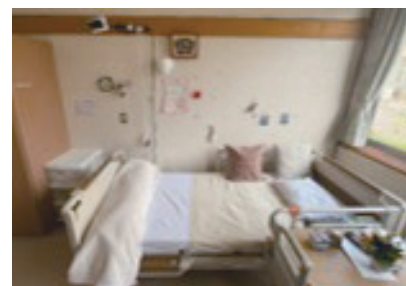


依田窪福祉会では業務効率化の一環としてGoogle Workspace for Nonprofitsを導入しており、上記イラスト作成にも、その生成AI技術を活用しています。

2. 導入された主なICT機器と現場での活用状況

① 全床導入！見守りセンサーマット & センサーカメラ

ベッド上の動きをリアルタイムで検知し、カメラと連動して素早く状況確認。夜間も睡眠を妨げず安心してお見守りできます。そのほかに、ベッド上で過ごされている間の呼吸や心拍の状況、睡眠の質、さらには今のご機嫌状態などが分かり、記録されます。



② 全スタッフ配備！スマートインカム

広い施設内でもナースコール通知やスタッフ間の連絡が即座に音声で届き、駆け付けや補助の連携がスムーズになりました。



③ 記録用タブレット & WISEMAN自動連携

バイタルやケアに関する記録をその場で入力。（音声入力可）
介護ソフトへ自動共有されるため、転写ミス防止と記録業務の効率化を実現しました。
当初懸念された世代差による機器アレルギーや操作に対する苦手意識などはあまりなく全てのスタッフが機器を上手に使って日々の発見や気づきを仲間と共有し、導入効果を高めていってくれています。

④ その他活用状況

収集したバイタルデータ等は解析しケア方針を見極める貴重な判断材料です。ご家族の意向あるいは必要に応じ、近況を知る大切なデータとして開示することも行っています。

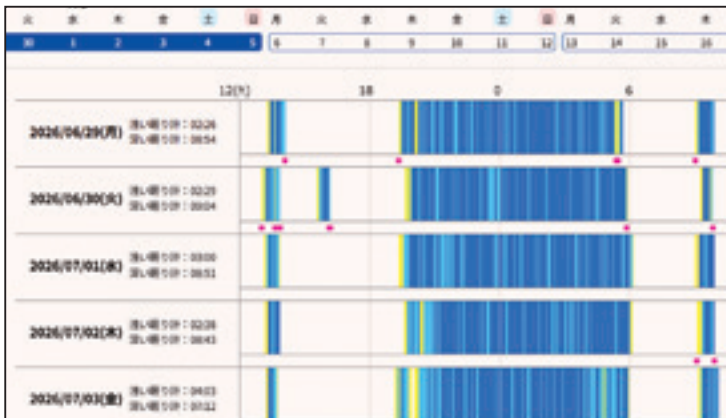
3. ベッド上で常にご利用者さまを見守る機器の紹介 (aamsとココヘルパ)



ご利用者全員分の状況管理画面

⇒ここから以下の情報が読み取れます

- ① 現在ベッド上におられるか
- ② 呼吸と心拍の状況
- ③ 眠りの質（深い・浅い・覚醒）
- ④ 過去のバイタル記録
- ⑤ 現在のご気分



就寝状況の確認画面

⇒ここから以下の情報が読み取れます

- ① 睡眠の質の記録
- ② 過去の起き上がりの記録(アラート記録)
- ③ 就寝状況と特定日のバイタル記録
- ④ 心拍・呼吸・体動・睡眠

4. ICT化がもたらした3つの大きな変化 「ゆとり」と「安心」と「情報共有」

変化のポイント

- ① 迅速な対応と事故防止
- ② 寄り添う時間の創出
- ③ 全スタッフでの情報共有

具体的な効果

センサーとインカムの連携により、転倒リスクが高い場面でも無駄な動きが減り、必要な時に必要なケアなど素早い駆け付けが可能になりました。

手書き・パソコン転写などの事務作業が削減されたことにより生まれた時間を、ご利用者とお話したり、レクリエーションを楽しんだりする時間へと充てています。

クラウド連動により、職種を超えて全員が常に最新の利用状況をタイムリーに把握できています。

5. おわりに ～「ゆっくり・いっしょ・わがまま」～

今回のICT化は、決して「介護の手を抜く」ためのものではなく、「人と人との温かい関わりを増やすための進化」です。

テクノロジーは「人の代わり」になるものではなく、「人と人との温かな関わりを支える道具」です。機器に任せられる事務作業や見守りをスマートに効率化し、それによって生まれた「時間」と「心のゆとり」を、ご利用者一人ひとりの「ゆっくり・いっしょ・わがまま」に寄り添う大切な時間へと充ててまいります。

「ともしび」では、これからも新しい技術を上手に取り入れながら、ご利用者が自分らしく笑顔で過ごせる場所、そしてご家族や地域の皆様にも安心してお任せいただける施設を目指して取り組んでまいります。

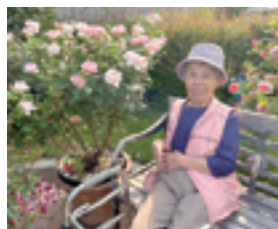


社会福祉法人依田窪福祉会 依田窪特別養護老人ホーム ともしび

デイサービスセンター 長門



四季折々のお出掛けです
見所満載☆☆



旬の食材が届き
天ぷら、煮物を楽しみました



わらび取り
普段の足腰の痛みは
どこへやら…



「おいしいもの食べに行きたい」
という声にお応えしました
「もうお腹いっぱい」

勤続20年!!高齡協で表彰して頂き
ご利用者からもお祝いして頂きました

デイサービスセンター和田

長年重ねた『心と心のつながり』を大切に
～デイサービスセンター和田の日常～

わたしたち職員は、ご利用者一人ひとりのお気持ちに寄り添い、優しく声をかけ、そっと手を添えるような温かな関わりを毎日大切に重ねています。



ご利用者にとってサービス開始当初の不安や、施設入所前の最後の利用日、スタッフの異動など、日々心が揺らぐ場面はたくさんあります。しかし、仮にどんなに身体や心が病に侵されかけていても、ご利用者がふと見せてくださる優しさや言葉に、私たち職員も思わず胸が熱くなり涙することがあります。

長年培ってきた信頼関係は単なる「介護する・される」を超え、家族のような深い絆となっています。言葉やカタチには表れなくても、「自分を大切にしてくれる人がいる」という安心感はお互いの心に残り続けます。



これからもこの絆を大切に、ご利用者が主役となって笑顔で過ごせる場所であり続けます。

白熱!長和拠点4事業所合同「ボッチャ大会」開催

笑顔と歓声に包まれるなか、長和拠点の4事業所合同による「ボッチャ大会」が賑やかに開催されました!投球のたびに、白いジャックボール(目標球)への距離が変わり、会場からは「おおー!」「惜しい、あとちょっと!」といった大きな歓声と拍手が巻き起こりました。一球一球に集中する、ご利用者の真剣な表情や、ナイスショットが出た際にはじけるような満面の笑みが印象的で、事業所の垣根を超えて心ひとつに盛り上がる大変楽しい時間となりました。



小規模多機能型居宅介護 大門の家

初夏の心地よい陽気の中、丸子のバラ園へドライブに出かけました。

散策を楽しんだ後はお楽しみのランチへ。心もお腹も満たされる楽しい外出になりました

大門の家ではご利用者さまの「行ってみたい」と言う声を大切にしています。その日だからこそその楽しみを見つけながら過ごせるのも、小規模多機能ならではの魅力です。



毎年恒例6回目の味噌づくりを行いました。

ご利用者のご家族とボランティアの方々、今年はさらにグループホームのご利用者と職員が加わり、大所帯での仕込みになりました。ハプニングもありましたがそれも含めて充実した一日となりました。

思い出の詰まった味噌はこれからじっくり熟成されます。

グループホーム 和田

収穫が楽しみ

初夏の頃、野菜の苗を植え、ご利用者と一緒にせっせと水やりに励みました。

アブラムシが発生して駆除に悩んだりしましたが、苗はグングン伸びて立派に実をつけました。もうすぐ収穫です。



食事作り

ご利用者と職員との共同作業で食事作りの時は皆様手慣れているため手際良くスムーズに進みます。



ご寄附ありがとうございました。

令和8年7月 ●紙パンツ 匿名様

令和8年9月1日

発行者：社会福祉法人依田窪福祉会 理事長：吉池 順一 編集：広報委員会 所在地：〒386-0503 長野県上田市下武石776-1
TEL.0268-85-2202 FAX.0268-41-4200 E-mail:info@yodakubofukushikai.jp